



葦

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

大阪発達総合療育センター機関紙
第9号 平成25年3月

職員研修実施状況 H24年12月11日～H25年3月5日

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成24年12月11日(火) 17:30～19:00	臨床心理科	服部祥子先生シリーズ講義3 思春期を中核に置く生涯人間発達論(学童期)	大阪人間科学大学 服部祥子 先生	94名	5階ホール
平成24年12月18日(火) 17:30～18:30	教育研修部	訪問看護めぐみの報告会「ヘルパーに継続するまでのひとつの完結の形」	訪問看護ステーションめぐみ 綱川美鈴 所長	81名	5階ホール
平成24年12月26日(水) 17:30～19:00	教育研修部	緩和ケアのこころ	淀川キリスト教病院ホスピス長 池永昌之 先生	85名	5階ホール
平成24年12月28日(金) 14:00～17:00	教育研修部	院内学会 就任記念講演「障害児療育の方向性」研究発表 7題	鈴木恒彦 センター長ほか、発表者7名	197名	5階ホール
平成25年1月8日(火) 17:40～19:00	経営会議	知ってみよう ポーバス概念と私たちの組織 第2回 ポーバスコンセプトの理論と実際	鈴木恒彦 センター長	92名	5階ホール
平成25年1月11日(金) 17:40～19:00	浦島顧問	統合的な栄養管理の根拠と実践	せんぼ高輪病院 足立香代子 先生	99名	5階ホール
平成25年1月15日(火) 17:40～19:00	経営会議	知ってみよう ポーバス概念と私たちの組織 第3回 私たちが考える地域連携と活動の現状	船戸正久 園長	83名	5階ホール
平成25年1月22日(火) 17:40～19:00	経営会議	知ってみよう ポーバス概念と私たちの組織 第4回 組織って!	浦島志郎 顧問	91名	5階ホール
平成24年1月25日(金) 18:00～18:30	リハ看護部合同	看護部・リハ部合同勉強会 「2Fわかば事例から遠慮 就学準備を通じて考えるチーム連携」	大道弘子 部長補佐 安瀬美紀 主任 松本あかね OT	52名	PT室
平成25年1月29日(火) 17:30～18:30	教育研修部	認定看護師の役割と病棟ケア	摂南大学看護学部 松田美実 先生	43名	5階ホール
平成25年1月30日(水) 17:40～19:00	経営会議	知ってみよう ポーバス概念と私たちの組織 第5回 センター職員専門性と組織人としての心意気	市村由美子 運営局長	72名	5階ホール
平成25年2月4日(月) 17:30～18:30	教育研修部	HPS活動報告 フェニックスでの取り組み キャロライン先生のミニレクチャー	HPS 稲岡いずみ Caroline Fawcett 先生	79名	5階ホール
平成25年2月19日(火) 17:30～18:30	看護部 教育委員	ブルーリークんの改善と評価	看護部長 松井吉裕 PT副主任	68名	5階ホール
平成25年2月22日(金) 18:00～18:30	リハ看護部合同	看護部・リハ部合同勉強会 「早期療育から見たなでしこの事例」	なでしこ 三好愛恵 主任 山口一平 保育士 リハ部 赤崎和也OT	42名	PT室
平成25年2月23日(土) 14:00～15:30	看護部・療育部	看護・療育研究発表会	2F:岩本美都里・山内美奈子・小村大輔 3F:糸井春江・氏本弥沙・土井知来子 ほか:岡田桂子、他	46名	2階会議室
平成25年3月1日(金) 17:30～18:30	教育研修部	もうすぐ始まる PACS オーダリングシステム説明会	医事課 富中章好 課長	91名	5階ホール
平成25年3月5日(火) 17:30～18:30	教育研修部	HPS イギリス体験記	HPS 市川雅子 主任	47名	5階ホール



社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長
梶浦 一郎

■春の訪れの予感

昨年までは社会、経済とも本当に暗く沈滞しておりましたが、今年になり社会全体も、また当センターの運営・経営ともに安定に向かい、組織改革も徐々にではありますが進み、まさに春の訪れを予感しているところです。

とくに昨年末の院内学会において、私たちの目指す改革、つまり「挑戦と秩序ある組織」への変革の萌芽を感じることができたと思います。院内学会では、医事課やあさしお園、ふたばやフェニックスの療育、NICU後方支援など、日々の業務の取り組みをまとめて報告していただきました。医事課は、職員の働きを現金化する最も重要な部門のひとつであります。新しい体制の試みが始められ、今後の活動への期待が高まりました。あさしお園では、放課後障害児児童保育が開始されました。「すべての体制が整ってからでない」と実施しないでは「何もしない」と同じことです。まずスタートしてみ、チャレンジしてみ、正しい方向に軌道修正していくことが重要です。今後の展開を楽しみにしております。ふたばからは、困難なケースに対する多くの人々による辛抱強い試みが示されました。また、フェニックスでの呼吸器を装着した児者のプール遊びの報告は、全職員が感激しました。これらは重症児の療育の本質に迫る重要な事実であると思います。そして、NICU後方支援のための入り口として在宅を目的とした入院、訪問看護、リハという流れをいちはやく取り組み始めた当センターの試みも、困難な道のりであると思いますが、今後、最も必要とされる活動です。鈴木センター長による講演で強調されたように、障害児療育とは「個々の問題に対する考えと、総合力の調和」が大切です。画一化された大量生産ではなく、手作りの問題解決の積み重ねが、総合的で秩序のある組織作りを目指す道であります。

そのための組織改革をこれからさらに進めてまいります。困難な道ではありますが、皆さんの力を結集し、明るく楽しい総合的な療育活動を創っていきましょう。

■特集によせて

今回の特集では「整形外科的対応」と「臨床心理科」を取り上げています。ポーバス概念とともに整形外科的対応は当センターの出発点でもあります。長年にわたるその一翼を担っておられる美延先生に執筆をお願いしました。私たちは「早期発見」「早期療育」によって、子どもたちの発達を促進するとともに、拘縮や変形といった二次的障害の予防に努めています。しかし、なかには整形外科的対応は避け難く、むしろ、将来を見据えて積極的に手術やボツリヌス治療を施行し、集中リハビリテーションを行って、ご本人の最高機能の獲得や維持をめざしております。美延先生の長年の経験に基づき整形外科的対応の現在について、ぜひ一読ください。

そして、臨床心理の取り組みです。私たちは子どもの姿勢や運動の難しさや生活支援に尽力しておりますが、子どもとご家族の心のケアはとても重要な課題です。臨床心理科の先生方は発達評価だけでなく、より生活しやすいご本人の様子やご家族の話を傾聴され、寄り添うことを大切に取り組まれております。合理性が求められる現代において、ライフステージに合わせた評価や地道な心理的ケアは、ますます必要になってきます。私たちにとって、これからより一層配慮して取り組むべき領域であると思います。

心と身体の調和を図りつつ、地域で子どもとご家族とが楽しい生活を実現できるよう、微力ではありますがチームで支援していきたく思います。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

【寄付金と寄付物品】

寄付者(敬称略)	物品名
12月分	田辺地区民生委員 寄附地区民生委員児童委員協議会 12月楽基金 (10件) (匿名) 東住吉区民生委員児童委員 委員会
1月分	ダイヤル労働組合本社支部 1月楽基金 (2件)
2月分	樋口 謙 鈴木義股義具株式会社 2月楽基金 (3件)
12月分	寄付者(敬称略) 物品名 早川電気通信株式会社 カラープリンター 2台 みかん(10kg 3箱) 児童図書 ぬいぐるみ、多数 イオン 株式会社オクトバストラベル・ジャパン キッズカード ぬいぐるみ、多数 全国農業協同組合連合会愛媛県本部 いよかん(10kg 3箱) 匿名 衣箱 USJキャラクターグッズ多数
1月分	
2月分	

イベントピックアップ

通園部ふたばもちつき大会

1月25日、お餅つきを行いました。お餅つきを初めて経験する子どもも多く、本物の臼と杵を目の前に子どもたちも保護者の方も大変喜ばれている様子でした。子どもたちは、職員と一緒に杵を「へんたん!へんたん!」のかけ声に合わせて一生懸命にお餅をつきました。つき上がったお餅は、船貸遊びとして感謝を申しんだり、引つ張って食べたりと、それぞれの遊びで楽しみました。当日は多数の親子がご参加され、普段あまり味わうことの出来ない雰囲気をもっと一緒に楽しむことができ、とても良い一日になりました。



センター被表彰者

- 理事長賞** 「重症心身障害児への療育(活動)アプローチ〜プール活動の効果について」 介護療育部 吉田 努
- センター長賞** 「医事業務の取り組みについて〜医事課スタッフのスキル向上に向けて〜」 介護療育部 川井 愛 事務部長 藤原 知加子
- 園長賞** 「NMC5後方支援における療育看護師の役割」 看護部 岡田 知子
- 清水賞** 「気管カニューレの事故除去を繰り返す児に対しての取り組み〜固定方法の工夫〜」 看護部 糸井 春江・土井 知来子
- 清水賞奨励賞** 「理学療法と上肢・体幹へのボツリヌス治療により臨床後の改善を得た一症例」 リハビリテーション部 平直有紀子 「症候性側痙直に対する当センターでの取り組み」 リハビリテーション部 出口 奈和 「母子保育の意味 ―Aちゃん親子を通して―」 通園部ふたば 岡田 桂子 「長期に入院した重度重症障がい児と家族の退院支援」 地域医療連携部医療相談室 近藤 正子 「NICU後方支援病院として地域医療連携部医療相談室」 地域医療連携部医療相談室 近藤 正子

当センター被表彰者の紹介

外部団体からの被表彰者

- 全国社会福祉協議会会長 永年勤続表彰(30年以上)2名** 大阪市社会福祉施設等従事者永年勤続表彰 大阪府社会福祉大会 永年勤続表彰(25年以上)6名
- 松本 茂樹・阪口 和代・松本あかね 濱田 浩子 (以上リハビリテーション部)
- 坂野 幸江 (リハビリテーション部)
- 大阪府社会福祉大会 永年勤続表彰(25年以上)6名
- 松本 茂樹・阪口 和代・松本あかね 濱田 浩子 (以上リハビリテーション部)
- 大阪府病院協会 病院職員永年勤続表彰(20年以上)1名
- 美延 幸保 (医務部)
- 第41回大阪府医療功労賞 1名
- 茂原 直子 (リハビリテーション部)

大阪発達総合療育センター

URL: <http://osaka-drc.jp>

- 【保険医療機関】 南大阪小児リハビリテーション病院
- 【児童福祉施設】 南大阪療育園 障害児入所・通所支援事業(肢体不自由児) フェニックス 障害児入所・通所支援事業(重症心身障害児者)
- 【指定訪問看護事業】 訪問看護ステーション めぐみ

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-11-21
TEL 06-6699-8731 FAX 06-6699-8134

- 【児童福祉施設】 あさしお園 障害児通所支援事業(肢体不自由児) ゆうなぎ園 障害児通所支援事業(聴覚児)

〒552-0004 大阪府港区夕陽 2-5-3
TEL 06-6574-2521 FAX 06-6574-2524



脳性まひへの整形外科的対応

南大阪小児リハビリテーション病院副院長
整形外科医 美延 幸保



■脳性まひ児の姿勢運動パターン

脳性まひの定義では、脳損傷は進行しません。しかし、児の成長や発達過程で現れる状態は変化します。

脳は、一つ一つの筋ではなく、筋群をパターンとして働かせて意図に応えます。感覚を通して空間における四肢と体幹の位置関係や筋の状態に関する情報を協調させます。脳性まひ児は動作の基礎となるこの運動パターンに制限があります。限られたパターンは定型化するので、拘縮が起こる危険性が常にあります。そのため早期治療において、できるだけ多様な運動パターンを促進し、代償的で定型的なパターンが身につく前に、運動の選択の幅を広げる必要があります。

早期治療に続く療育では、獲得した運動能力をより実際場面に適応させて新たな機能獲得につながる運動・感覚の学習をめざします。しかし、脳の発達と環境変化に伴う個々の認知・概念形成、意欲、骨成長による相対的筋の緊張、そして、獲得した姿勢や運動による過剰努力は過緊張を増大させ、動きにくさを増やすことが多いことが実際です。このため手術などの整形外科的対応を組み合わせる必要があります。

■整形外科的処置

早期治療と療育を効率的に行うために、4歳〜7歳頃の骨・関節の成長に伴う運動障害の増悪に対して、補装具、ボトックス注射、手術などの処置を検討します。とくに最近では、頭のコントロールと視覚認知、上肢機能の発達促進を目的に、早くからブレイリーくんの積極的な使用も考えています。短期集中リハ入園などを適切な時期に行って、就学やその後の機能獲得を支援します。

手術は主に、まひ性股関節障害・下肢変形に対し軟部組織離断術（短縮した筋を切って延ばす手術）を行い、その後も股関節の整備が不十分な場合には、大腿骨内反骨切り術やキアリ骨盤骨切り術を行います。

1. 股関節脱臼に対して

股関節の亜脱臼は下肢の過緊張により起こりやすく、進行して脱臼すると股関節の運動制限により座位が不安定になるなど運動発達の支障となります。早期の亜脱臼であれば、筋肉や腱の手術で対処できますが、早くから脱臼傾向がある場合は、ボトックス治療や長内転筋、ハムストリングスという股関節の筋の皮下切腱を行い、外転装具で経過をみます。それでも脱臼傾向が進行する場合は、本格的な筋肉や腱の手術をします。

通常の筋や腱の手術では術後3〜4週間（脱臼例では6週間）、股関節外転位でギプス固定し、骨盤帯付き外転装具で数ヶ月経過させます。座位が不安定な場合には座位保持を目的に装着を継続することもありますし、ブレイリーくんを活用することもあります。脱臼程度が強い場合は術後も求心性が不十分であった

り、一時的に股関節が整備されても過緊張が再度出現して亜脱臼や脱臼が再発することもあります。とくに第二次性徴期の身長増大を背景に、体幹・骨盤の非対称や、術後下肢の支持が得られず臀筋の活動が乏しい場合に再発しやすく、大腿骨頭が外方偏位したまま納まりが悪いと、本来深い臼蓋の底が浅くなり骨頭を納めることができません。そのようなときには、大腿骨を切って曲げて整備を図ったり（内反骨切り術）、骨盤を切って臼蓋を形成することもあります（キアリ骨盤骨切り術）。

2. 尖足変形に対して

尖足変形の整形外科的対応については多くの議論があります。両まひでは過矯正による底屈力低下が沈み込み姿勢となって歩行機能が低下することが懸念され、歩行機能の高い例ではギプス矯正や装具療法などの保存的治療が優先されます。平成20年4月に小児脳性まひの下肢痙縮に対するボトックス療法の保険適応が認められました。下腿三頭筋への施注をすることが多く、運動療法や装具療法を組み合わせることで、変形が改善し起立や歩行機能が向上する例も見られるようになりました。尖足変形や内反尖足変形が強く、保存的治療では対処できない場合、腓腹筋腱延長術（ペーカー法）やアキレス腱のスライド延長（ホワイト法）を行っています。片まひや重度な四肢まひでは、皮膚を大きく開せず皮下でアキレス腱の近位と遠位を2/3横切してスライド延長を行っています。そうすることで、術後の創部の癒着や侵襲が少なく、手術や麻酔の時間が短縮できるので児の負担軽減につながると考えています。

3. 下肢の屈曲変形に対して

股関節を屈曲させる腸腰筋腱には切離やスライド延長を、膝関節の屈曲に働くハムストリングスには膝窩部で小切開して半腱様筋・半膜様筋・薄筋・大腿二頭筋の腱性部分を切離延長します。股関節の屈曲変形が強い場合、腸腰筋はスライド延長し、ハムストリングスは皮下切腱を行ってギプス固定はせず軟性の膝伸展装具のみとし、速やかにリハビリテーションを行なうことで、術後の機能低下を最小限に留めるようにしています。学童期から思春期にハムストリングスの短縮が問題となって再手術を行う場合、前回の皮切を利用して延長を行っても創部での癒着が強くて十分に延長できないことがあります。最近ではハムストリングスに対しては皮下切腱を行うことで、術後の皮切痕が目立たず、再手術でも位置を変えた切腱が可能のため、初回手術と同様の効果が期待できると考えています。手術の侵襲が少なければ、術後早期にリハビリテーションを開始でき、効率的に取り組めます。座位が難しい重症な例に適応を拡げることができません。

脳性まひの整形外科的対応は、あくまでも当事者である子どもたち個々の特性に配慮して、効率よく運動学習に取り組めるよう、補装具・ボトックス療法・整形外科手術を有効に行っていきたいと考えています。

● 臨床心理科の仕事から ●

臨床心理士 杉原 康子

今回は、臨床心理科の仕事をご紹介します。現在、臨床心理科スタッフは3名。センターに所属しておりますが、そのうち1名が週2日あさしお園に向っています。センターの「心理のおへや」は、管理棟3階南側に位置し、天気の良い日はおひさまの光が差し込み、ボカボカと明るく暖かい部屋です。

現在の業務と特徴

臨床心理科の主な業務として、各医師からのオーダーによる発達検査、発達評価があげられます。発達検査には色々な種類があり、その目的もさまざまです。例えば、発達状況の確認として行うもの、療育手帳取得や階級付けのための判定もあります。当センター臨床心理科では発達評価を「できる・できない」「平均と比べるための数字の算出」ではなく、次の三つのことを目指しています。

まず、第一に、現状のお子さんの発達特性をしっかり把握、理解すること。第二に、身近な大人がお子さんへの支援のバリエーションを検討するのに役立つこと。第三に、ご家族への説明が結果の報告だけでなく、今まで歩んでこられた道をたどり、これからどう生きていくかを考えるために役立つ時間となることです。

そのために、その方の身体状況に合わせたさまざまな工夫をしながら、日常の様子をのていねいな聴き取りや行動観察、ご本人やご家族のお気持ちを伺いすることを大事にしていきたいと思っています。

また、音楽活動などのグループワークやプレイセラピー、ご家族との面談なども行っています。



第41回大阪府医療功労賞



平成25年1月30日に茂原直子次長（リハビリテーション部作業療法士）が表彰されました。長年にわたる脳性まひ児者への地域医療貢献を称えるものです。茂原さん、おめでとうございます。

清水賞6名、院内学会において3名が表彰

1月4日の年賀式において、清水賞に糸井幸江さん、清水賞奨励賞に近藤正子室長、岡田桂子さん、中田有里さん、出口奈和さん、平垣有紀子さんが表彰されました。年末に開催された院内学会において、理事長賞に介護療育部吉田努さん、センター長賞に事務部医事課の川井愛さん、園長賞に看護部岡岡知加さんが表彰されました。清水賞とは、清水信幸先生の仕事に対する姿勢、ご功績を継承し、さらに発展させるために、平成18年から始めた職員表彰にその名を残すものです。